

その担当官は「すみません間違いをしました、貴方は合格しています」と言うので私は「それでは、合格通知を下さい」と言うと、担当官は「これは取り決めてここでお渡しは出来ませんが、合格通知ハガキを早速お送りするので、それまでお待ち下さい」とのことで、私は納得して帰りました。

歳末大売り出しの特等賞が当たった！

まだ話は続くのです。それから二人は秋葉原へ出て部品を買い始めました。私は真っ先に「リオンのスタンドマイク」を買いました。(シャックの写真の机の上に見えます)



名波君は何を作るつもりか一生懸命部品を買っていました。

当時は11月末でしたがもう歳末商戦が始まっていて、くじ引きもあり、私も抽選券を貰いました。

二人で抽選場に行き私が先に引くとパーでした。

ついで名波君が抽選機の前に立ったときに、私は先日町内の抽選で妹が特等賞で筆箱を当てた時の話を思い出して、名波君に「妹が特等賞を取った時の話で、この回転機を半回転してよくゆすってから、一回転したらあたったという話だから、君もやってみようよ」というと彼は早速やってみようと言ひ、そのとおりにやってみました。

ガラガラ、ポン、色の違った球が出てきました。抽選の担当者はいきなり手振りの鐘を取り出して「カランカラン特等賞でした」と熨斗袋に一万円の入った賞が名波君に渡されました。私はうらやむと同時に彼を誘って来た事が良かった、と思いました。彼はその一万円で部品を買い足して、また抽選券を貰ひ、再度抽選しました。ところがまたもや「カランカラン今度は三千円当たりました」嘘のような本当の話です。

私は私の職場にプロの一般通信士がいましたが、名波君の隣の職場にいた一般通信士の前田さんと言う方に私の家が会社に近かったので、会社の帰途前田さんに家に立ち寄って頂いて、電信を習いました。

懐かしい思い出です。



左近山アマチュア無線クラブ JA1ZNI 便り 第8号 平成5年8月31日 左近山アマチュア無線クラブ事務局発行

あさひ「ガーデニング祭」、連合「国地祭」で公開運用

8月3日のあさひ自治会「ガーデニング祭」(各町区中会グラウンド)と8月23日~24日の連合自治会「国地祭」(南2小学校)で公開運用を行いました。いずれの場でもあまりくくらないローテーションで低周波にアップ1が入るなどのトラブルもありましたがあわせて50局近くとの交信を行いました。

同時に行なった生活用品や食品の取次もほぼ完了した見舞の光り上げを待っています。

公開運用では、国地祭や近郊にお使いのアマチュア無線家や基盤に例えられた方々から意見や質問を頂きました。

8月度のミーティングの席で公開運用の報告、即興の会計報告が行われ各員の新年会意見交換が成され、今後の当クラブの方針等が話し合われました。

写真は、今回新調したクラブ旗の前でアメリカとCWで交信中のB1Z局 (写真データ提供 K111UC)

8月度ミーティング報告

- 8月3日に行われたあさひ自治会「ガーデニング祭」に出展。公開運用や生活用品等の取次を行いました。当日バンド演奏で出展されていた佐野さん(JA1JF)が正式に入会されました。
- 8月23日~24日に行われた連合自治会「国地祭」に出展。(ガーデニング祭に同じ)24日には、途中で恒例の雨降ったり、アンプ1が出たりしましたが日直で北海道から九州まで20数局と交信しました。
- 左近山道1小学校一時避難所運営委員会が9月2日に第2集会所で当クラブも代表の召喚を受けています。9月14日に予定されていた同避難所運営協議会は11月頃に延期になりました。

次回ミーティングは、9月28日(土)19時から第5集会所

＜＜＜ 各局便り ＞＞＞

K1UR (福岡) 9月1日防災の日には福岡市非常勤消防協力会指定消防隊を勤めてみてはかかでしょうか？ アプ1の持ち回りによれば元々あったコールサインが再度取得できるようになることでした。9月21~22日換装代に移動します。21.200MHz付近で出ます。

BQT (徳島県) 新しい会費を配布しました。「お祝い」が1件あり「お祝い」に物と書かないようにして下さい。

F1Z (宮村) 9月は毎月10日のボランティアが3つあり多忙になりました。10月期の2ヶ月間家出の申請をしました。

IUC (山崎) 国地祭の2日目に写真を撮ってみました。写っている方はボストンに入っています。「一期」新機の方に差し上げます。(ミーティング時に完了しました)

OLC (新潟) 8月に佐野氏に移動し主にレベータ運用を行いました。

OMC (小野寺) 8月は、長野と千高に移動しました。長野からは15エレスクックで出ましたが三重、群馬、栃木とQSO、横浜近郊とは出来ませんでした。山崎移動時は台風に空が荒れ上られませんでした。

XES (太田) お祭りでの生活用品等の価格は7,755円でした。クラブ会計にお渡します。

XER (太田) クラブ旗と引き取りました。事前申請ですがとてもGoodです。9月1日は防災日の防災訓練の熱帯担当の本部長員なので朝早く移動します。

MMU (福田) 非常勤消防協会の規約をお配り致します。連合自治会会長より国地祭のとき当クラブに協力が必要がありました。

SKY (富木) 国地祭では良く飲み、良くQSOをしました。クラブ用の無線機やシートが欲しいと思います。

ラジオの製作に励んだ少年時代

JA1BNW 広島 孝之

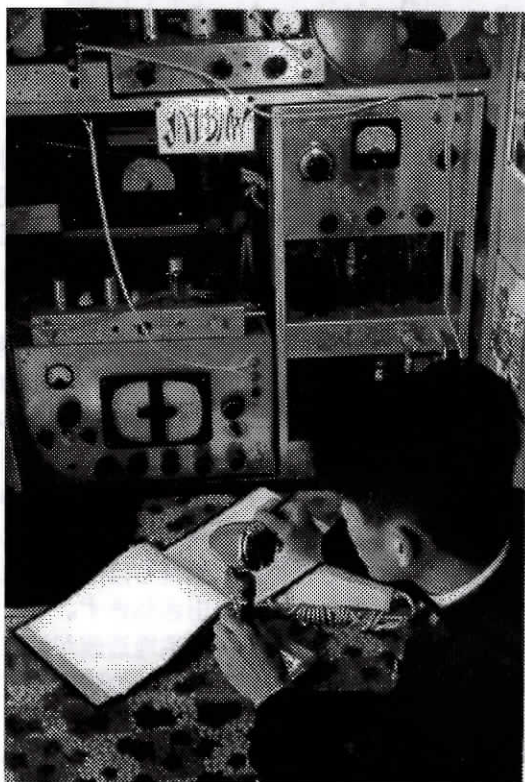
横須賀は私にとって非常に思い出の深い町です。

第二次世界大戦の時に海軍の技術士官だった父は横須賀海軍に勤務していました。その後、父の勤務先は海軍基地のある呉、佐世保と転々と移り、私が国民小学校2年生の時に佐世保で終戦を迎えました。

旧日本海軍工場の近くの広場には製造途中の旧日本軍の魚雷艇が放置しており、そこにはいろいろなジャンクの部品が山ほどありました。未だ小学生だった私は珍しい部品を家に持ち帰り分解して遊んでいました。このジャンクの中から銅線とトランスの鉄心を利用して模型の電気機関車を動かすための変圧器を作ったり、竹のボビンにコイルを巻いて鉱石ラジオを作ったりしていました。中学に入学した頃から真空管式ラジオを組み立てるようになりましたが、当時使っていたチューブは自宅に転がっていた2.5V管のUZ-57、58や6.3V管の6C6、6D6

等のST管でした。IFTやコイル類は富士製作所（スター）と春日無線（トリオ）の製品がありましたが私が住んでいたJA6の田舎ではスターの方が入手容易でした。

この自作の中波受信機は昭和26年（1951年）から開始された民間放送局のBCL用として大活躍、ペリカード集めに励みました。



1957年（昭和32年）7月・開局当時のJA1BNW局（QTHは横浜市南区上大岡）
7MHzは終段807のTX
50MHzは終段2E24でした。

アマチュア無線に思いを馳せたSWL時代

アマチュア無線のSWLを始めた頃、私は大村湾が眼下に見渡せる長崎県東彼杵郡という片田舎に住んでいました。中学生だった私は中波のスーパーヘテロダイン受信機は持ってはいたものの短波のコイルバックを買うお小遣いがなく、やむなく壊れたST管のベースを利用して作ったプラグインコイルでバンド切り替えが出来る1-V-1を自作しました。超再生受信機だったこともあり電話を聞くには分離が悪く満足できませんでしたが電信は楽しめました。

夏休みのある日、JA6CNのコールサインで交信する大きな声が突然、ダイヤル一面に飛び込んできました。あまりにも大きな信号にビックリ、早速外に飛び出し隣近所をキョロキョロしました。何と自宅から4～5軒先のお宅にハンゴ型フィーダーを使った大きな7MHz用フルサイズのダブルネットアンテナが建っているではありませんか、この絵に描いたような格好いい大きなアンテナに圧巻され胸がドキドキしたことを覚えています。早速、同級生の友人・松本君（現在JA6XE）とシャックを訪問、局長のJA6CNの中山さんにお会いし無線機を見せて頂きました。当時、東京の日大の学生さんだった中山さんはアルバイトをしながら神田で部品を集め組み立てたとのこと、1625のファイナル、1619PPの変調器、海軍タイプの大きな水晶発信器等、はじめて見る無線機に二人は興奮しました。この時から明けても暮れてもアマチュア無線への思いが頭から離れず、学校の授業は上の空でした。Hi

JA1へQSYいよいよ開局、そして横須賀へ

高校1年の時、横浜の上大岡へQSYすることになりました。横浜は九州の田舎とは異なり多く局が既にローカルに開局していました。高校の同級生の中にハムに興味を持つ友人がいたこともあり、横浜クラブにSWLとして入会させて頂くことになりました。横浜クラブのミーティングは当時、反町の婦人会館で開催されていましたが、メンバーにはJA1AN、JA1AX、JA1BZ、JA1CB、JA1CP、JA1GC、JA1KS etc.・・・OMさんがズラリ、その頃のコールはJA1三文字のAコールの始めまで来ていました。アンテナの話、DXとの交信の話、50MHzの電波伝播の話も盛んでした。JA1KSの栗山さんからこの時初めてキング・ソロモンの法則についてお聞きしてなるほどと納得でした。高校生だった身軽さもあってシャック訪問もさせて頂きました。こんな環境の中でSWLを長らく続けている内にアマチュア無線に関する知識も徐々に深まり、電信の交信の内容もコピー出来るようになってきました。将来は通信士になって世界の海を航海したいと思うようになり、父に相談したところ「孝之の時代には電信はなくなるだろうか

ら電信は趣味に止めておきなさい。」と言われ、プロの通信士になることはあきらめました。アマチュア無線家として電信で海外の局と交信したい気持ちは高まるばかりでした。

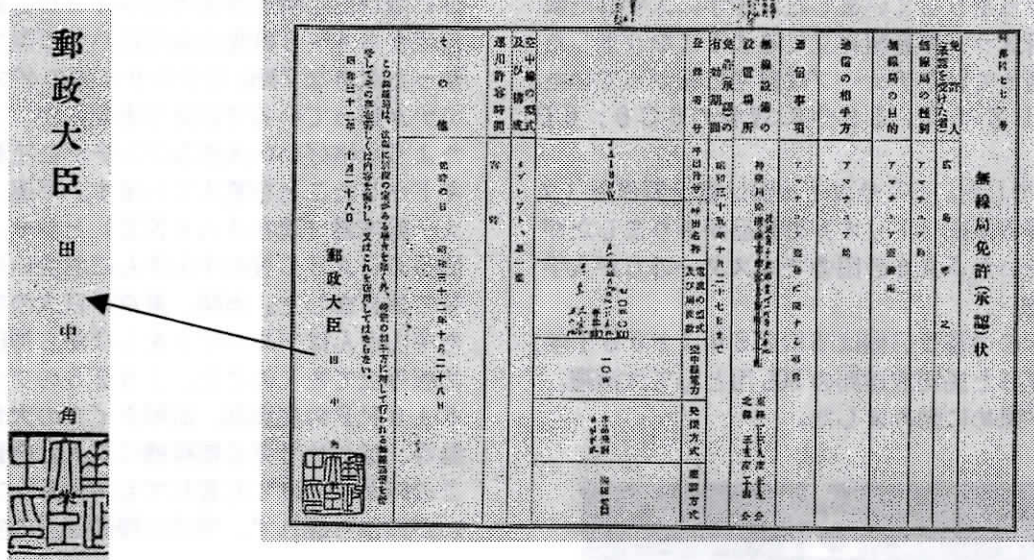
当時の合格率は1アマが1%、2アマが5%でしたが遊びとは言え開局への道のりは厳しいものでした。

難しい1アマはあきらめ2アマを取得、1957年(昭和32年)に7月にJA1BNWのコールで開局することが出来ました。HFは7050kHzと7087.5kHzの水晶発信器による2波のA3、VHFは50MHz帯のA3、10W免許での開局でした。当時の無線局免許状は現在のサイズと異なりB4サイズの大型のものでした。ちなみに当時の郵政大臣はあの田中角栄さんでした。

した。



1959年(昭和34年)横須賀市東浦賀へQSYした当時のQSLカード



その後、1959年(昭和34年)にFT241Aのハーフラティス・フィルターによるSSBのエキサイターを製作、A3aの電波を出し始めました。

当時はまだSSBの局は少なく、14MHzではKR6(沖縄)を耳にしましたが、JA局はまだほとんどがAMでした。7MHzで一日ワッチしてもSSBの電波を出している局はJA1CE, JA1AEA等・5~6局程度だったように思います。

開局間もなく横須賀の東浦賀へQSYすることになりました。東浦賀のQTHは山に囲まれ無線をやるにはちょっと問題のロケーションでした。それでもやる気満々だったせいか、谷間に上げたアンテナ(7MHzはダイポール、28MHzのキュービカルクワッド、50MHzの3エレ八木)でもDX QSOを結構楽しんでいました。

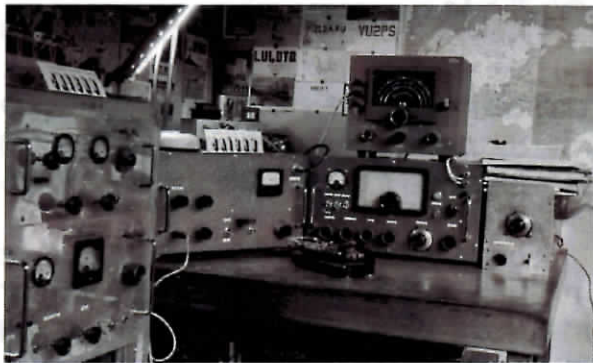
ちょうどこの年の1959年(昭和34年)4月、初の電信・電話級の国家試験が施行され一挙に1万7千人近い受験者が殺到しJAのアマチュア無線界に大革命が起きました。Hi

一方、旧2アマには5年間の新2アマへの移行期間が設けられ、電信の試験に合格すると新2アマの資格が与えられ、合格しなければ電話級へととなりま

1961年(昭和36年)に2アマに全バンドの電信・電話の使用が許可されるようになり、同時に電信・電話級には21MHz・28MHzが許可されました。新2アマの出現でJAの14MHzはDXを追いかけるJA局でにぎやかになってきました。

横須賀では14MHzのCWで既に久里浜のJA1HOM 中西さんが活躍しておられました。中西さんはプロの通信の教官だけありすばらしい耳の持ち主で、私のお手本でした。当時、14MHzのCWをいつもワッチしておられた中西さんから私がOHの局に東京オリンピックの切手をせがまれているのを聞いておられ、この切手をOHへ送って下さいとお手紙を頂きましたがこの暖かい気持ちは40年以上経った現在も昨日のように思い出されます。

その後、東浦賀のQTHから宅地造成が始まったばかりの京浜団地(現在の浦上台)の防大近くのFBなロケーションへQSYしました。浦賀駅の近くに土地が空いていたにもかかわらず無線のためにわざわざ駅から離れた山の上を選んだため、その後、年老いた両親には苦勞をかけることになってしまいました。



1959年(昭和34年)東浦賀にQSYした当時のJA1BNW局 RXの左ケースはSSBのエキサイター終段6AG7GGの4本パラのリニアアンプ、プレート電圧は1KVでした。

DXハンティングの始まり

浦上台へQSYしてからのアンテナはハイゲイン14AVQ一本でしたがロケーションがFBだったお陰でDXQSOも結構楽しめました。この頃にJAのDX熱は開花したのではないのでしょうか。

1964~1967年 W9WNVとK7MLU ドン・ミラーとチャック・スウェイン
1965~1970年 W4BPD ガス・ブローイング
1965~1990年 W6KGとW6QL ロイドとアイリス コルビン夫妻

特にドン・ミラーの強力な信号とCODAXのキーヤーから打ち出されるハイスピードのCWとクールな運用手法には大きな刺激を受けました。

JA同士のパイルも段々激しさを増し、今度は聞こえるけど飛ばないということに痛感、一時お休みしていた1アマへの挑戦が始まりました。1967年(昭和42年)、1アマに合格、500WにQR0することになりました。ローカルで7MHz CWで活躍しておられた馬堀海岸のJA1FDUの吉沢さんが電信級から突然1アマにアップグレードし14MHzに2エレのQCとKWのリグで踊り出てきました。お互いに良い刺激を受け合い2mのFMで連絡を取りながらカントリー数もどんどん増えていきました。ちょうどこの頃、中学生だったローカルのJA1RPKの川名さんが遊びに見えたことが今でも懐かしく思い出されます。そのヤングの川名さんも今では毎月立派な記事が無線誌に発表されるほどのOMになられました。Hi

この当時の横須賀クラブのミーティングは上町の集会所で開催されていましたが私も何回か参加させて頂きました。

再び横浜へ戻り、そして南米(PY)へ赴任

30代だった私は仕事もQRLで残業も多くなり、会社により近い鶴見の岸谷にQSYすることになりました。新しいQTHは小高い丘の上でFBなロケー

ションでしたが間もなく家族共々ブラジルのサンパウロへ赴任することになり落ち着いて鶴見からQRVは出来ませんでした。

赴任先のPYは日本との相互運用協定が締結されてないことからハムの運用はあきらめていましたが、ヒースキットのSB-102を引越し荷物に忍ばせて

日本を発ちました。当時はガイゼル大統領下の軍事情権の国であったブラジルでPY-JAの相互協定も

締結していない日本人がPYで開局することは容易なことではありませんでした。

約2年間のQRT状態が続きましたが、その間ブラジリアの政府高官、PYの電監(DENTEL)等と交渉を続けた結果、日本人として始めて1980年2月27日にPY2ZTHのコールでオールバンド、1KWの免許を取得することが出来ました。この免許はJAの免許に対してではなく、1979年に取得したFCCのN1APFに対して免許が与えられたものでした。PY2ZTHでは1980年のWAEの電信部門及びWWの21MHzの電話部門でPYのトップスコアで入賞することが出来ました。



1980年(昭和55年)サンパウロのPY2ZTH局

アンテナは14階建てのマンションの屋上に上げた3エレ八木、コンテストの時はSB・220を使つての運用でした。

1º ENCONTRO PY/JA=JA/PYの最初の出会い

PYからJAに帰任

サンパウロでの4年間の仕事、家族と暮らした3年間の生活は貴重な経験でした。特にラテンアメリカ特有のAbout(More or Less)な感覚には最初は胃が痛くなりましたが、慣れてしまえば人間が本来望んでいる自然のものらしく、むしろ快感すら覚えるようになりました。

帰国後、1981年(昭和56年)10月22日に外国人にアマチュア無線局の開設を認める件の法案改正に係る電波監理審議会聴聞会を開催するので出席するという連絡が郵政省から届きました。

聴聞会では欧州のアマチュア無線の免許制度につ

いてKDDのJA1CLNの笠原さん（故人・後にJARLの業務課長）が、米国と南米の免許制度については私が説明することになりました。日本の免許制度は諸外国比べ10年遅れているとお役人の前でぶち上げたためちょっとひやひやものでしたが結果はオーライでした。Hi 相互運用協定のための必要法案は国会を通過し、その後間もなく米国、ドイツをはざりに相互運用協定が結ばれていきました。

現在では免許条件の中の国籍要項を削除、従事者免許の相互乗り入れ等の利便性を追加することで、従来の行われていたOne by Oneスタイルの相互運用協定の締結を目指す事務作業は実質上行わなくなりました。

光陰矢の如しであります、少年時代に始めたアマチュア無線も今やお年寄りの趣味になりつつある様で自分の年は棚にあげ心配している訳ですが、もともと年齢・職業に関係無く楽しめるKING OF HOBBYでしたからこれでもOKなのかな？と思ったりしている今日この頃です。

現在のQTHは、PYの赴任前に確保しておいた港南台の山地でしたが、帰国してみたら造成が進み削り落とされ普通の宅地になっていました。このQTHにご近所に迷惑をかけない程度の鉄塔（15m高）とアンテナを上げてQRVをしています。

JARL横須賀クラブの益々の発展を祈願してファイナルといたします。FB DX！ 73

JARL 横須賀クラブ創立 50 周年にあたって

伊豆スカインラインクラブ
JA2DPQ 高木智男

アマチュア無線とは不思議なものです、今私が皆様にこの様な文章を紹介させて頂いている事さえ不思議です。

私も昭和21年生まれで既に57歳となりました。開局してあつという間に40年余たちました。開局当時は高校生で毎日3.5MC.50MCA3でQSO朝に晩にしたのですが当時何の話をしたのか思い出せません。気力体力も随分あったのでしょうか。

横須賀まで50MC A3 モービルで連絡とりながら行ったものでした。

伊豆からだ江ノ島、鎌倉を通り畑の中（スイカがたくさん有った気がします）を歩いていった気がしますが、そしてソフトボールをやりましたね。また伊豆へ来ていただいたときは夜マージャンもやったりしました。楽しい良き時代だった気がしています。少しは当時の事が思い出されたでしょうか。

さてJARL横須賀クラブ創立50周年お祝い申し上げます。

永年アクティブによく続けられた事と敬意を表します。横須賀とは同じ半島で電波の飛びも良かった為か多数の局とQSO出来ていました。不思議なのはもうひとつ10Wでよくノイズも無く59でQSO出

来た事です。

何人かの方には宿泊させていただいたり大変お世話になりました。三崎の漁業無線局を見学したことはよく頭に残っています。マフ漁船とCWでQSOしているんだなんていってましたね。当時プロの局を見学させてもらうことはとっても貴重なことでしたからね。

私の当時のリグは例の807Sの送信機に40mのDPそしてハンゴフィーダー50MCは2エレTVフィダー・八木木製 手モーター・カードはガリ版印刷毎日ハムに命をかけていました。

仕事を独立後昭和52年～20年間位QRTしてしまいましたがクラブの面々とは時々グランドミーティングを行っていた関係3年ぐらい前から1局づつ目を覚ましてもらいとうとう15局位で現在楽しんでおります。

でも3年位前久しぶりに3.5MC.7MCへ出て驚きましたよSSBの音がすばらしく100wも簡単に出来るワンタッチで周波数も変わる無線機でなくコンピューターみたいだと思いましたよ！！でもQSOした相手のコールをなかなか覚えられないことが今不満です。

昔は相手のコールをずっと呼んで最後に自分のコールを言ったものですよ。今は相手のコールはパソコンに載るだけです。...しかし世界中の局と自由にこんなにQSO出来るなんて当時考えもしなかったことです。アマ無線を止めないで良かったです。

ローカルのクラブ仲間たちとこれからの人生を楽しく生きられる様お付き合いさせて頂こうと考えています。

横須賀クラブの皆様グランドで会ってもまったく誰だか分からないでしょうね。お互いに30年以上も経ちましたもの。

少し前仕事でそちらに行った時久しぶりにJA1FFPさんのお宅へ伺いました。

体調が悪くしていましたが私の事は良く覚えていてくれました。しかし残念な事に私がずっとQRTしていてもハム音痴の時で私に話題が無く。今思うと本当に残念です。FFPさんが色々カード等見せてくれたのですが、今元氣なら楽しいアイボールが出来るんですが。

私は現在主に21MHzに出ています。ローカルも21MHzが主力です。聞こえていましたらQSOよろしくお願いします。

昔のようにQSOの相手を探す時代は去ってしまひ沢山の局がいますが、いつまでもアマチュア無線が世の中に残って欲しい。例え一部の人の趣味になってしまう時代がくるかもしれませんがJARL（皆様も含んだ意味）が有り今世までバンド確保に力を注がれた事は事実です。

皆で協力し暖かい親心でJARLを守っていく事が我々の道だと思います。これからも横須賀クラブの益々の発展と皆様の御健勝を祈念します。

開局当時の様子

JA1BNY 森 正弘

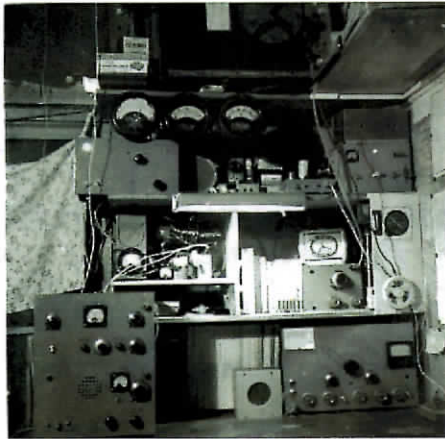
JARL横須賀クラブ創立50周年にあたり心よりお喜び申し上げます。

開局当時の様子を記し、お祝いに变えさせていただきます。

開局しました

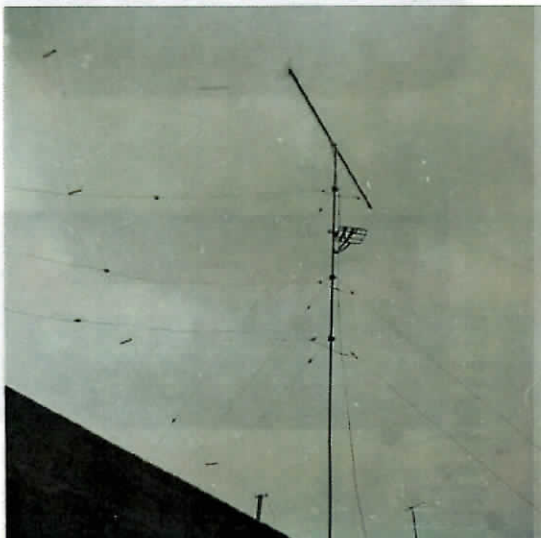
昭和30年頃よりどうしても無線がやりたくなり、昭和32年3月に従免をもらい、無線局免許申請を、昭和32年7月に出し予備免許が12日後に下りました。

新しいコールサインが与えられ、胸がわくわくでした、早速電波を出したかったのですが其の頃はお金もなく、又適当な無線機も売って無く、先ずはすべて自分で作る事にし、もちろん真空管式3.5と7MHzのA3送信機6V6s、5W受信機スーパーヘテロダイン式コイルも自分で巻いて作りました。電源もダイオードは無く真空管でした。



その頃は、免許を申請する時に無線設備の工事落成の予定日を記入する事になっていましたので、まにあう様に一生懸命作りました、秋葉原えも良く行きました。

無線機も出来上がりANTも張り終え(写真は、ハンゴフイーダーの7MHzダブレット)予備免許中は試験電波の発射をコールし、BCIの調査を必ず行う事になっていました。



又ダミーロードを使って調整をしてから電波を出していました。

最初は電波がでているかわからないので、ローカル局の1OG, 1SP局他とQSOをお願いし飛んでいることがわかり、その後横須賀の1IV, 1BTR他とQSO各エリアとのQSOをしばらく行い、早速工事落成届けをだし新設検査をお願いし9月25日、1BPBと共に同じ日に検査を受け正式に免許が下り電波を出せる様になりました。

(免許状は、いまのとは異なり大きく承認と入っていました、その後縦書きになり承認の文字も無くなりました。)



その頃は毎年定期検査を受け業務日誌を付け、3ヶ月毎に業務日誌抄録をハガキで出していました。

QSLカードは初め手作りし、その後印刷を頼みました。



50MHzでVKを受信

昭和33年頃よりVHFを始めず50MHzの超再生式受信機を作り、めったに聞こえない電波を待っていると逗子の1VDが聞こえVKとQSOしているのが入ってきました。超再生式の為シャープでないので受信できたのだと思います。

その時使ったANTはTVフィーダを使った、ホールドド、ダイポールで、タルキに取り付け屋根に上げ、家の中より手動で回す様にメカを作り、セルシンモーターにより方向指示し、楽しんでいました。回してみるとこんなANTでもビームが有る事がわかりました。

その後、5エレのANTに取替え、天井裏にモーターとセルシンモーターを取り付け自動で回るようにしました。



色々とするのが好きで、144MHz、829Bの送信機
400MHz、832Aの送信機、50MHzハンディー機
HFモービル機等、製作し毎晩の様にローカル、横須賀方面
と楽しんでいました。

横須賀クラブへ入会

横須賀クラブは32年頃と思いますが1OG氏の紹介に
より加入させてもらい、40年頃監事をつとめその後逗子
クラブが出来ましたので抜けました。

その間、今はあるかどうかわかりませんが上町会館で総会
ミーティング、1BHZ宅で電信の練習、ホックスハンディ
ング等、懐かしく思い出します。

現在の設備・運用

当方現在は以前の住所より少し離れ90mの山の上に引
越し（少しでも電波の飛びが良いと思い）現在A1、A3
SSB、1.8~1200MHz迄免許がありますが、高台
なので風が強くビームANTは上げられません。

今は、12mのパンザマストにGP、3本パンザより傾斜
型7MHzダブルレットにて14MHz、400MHzにたま
に出て運用しています。



現在の設備は、固定局FT-747GX、FT-4700
モービル局FT-4700等にて細々と出ています。



今はまだ現役で自営をしておりますのであまり出られま
せんが、聞こえていましたらお相手を御願ひいたします。

50年の長い間維持してきた役員の皆様、会員の皆様
のご苦労は大変だったと思いますが、長い間で得た経験、体験は
貴重な資料になると思います。

若い人に伝えていっていただきたいと思います。

横須賀クラブの発展をお祈りし、今後ともよろしくお願ひ
いたします。

